

ASIAGAP の 2028 年終了と JGAP (+SA) への一本化に関する Q&A

2025 年 4 月 22 日

5 月 8 日、6 月 26 日一部改定

Q1：なぜ ASIAGAP の運用終了を決定したのですか。

A1：ASIAGAP は GFSI Benchmarking Requirements 2020.1 に基づく GFSI からの承認を取得しています。昨年 12 月 20 日に公表された新たな GFSI Benchmarking Requirements 2024 では、農業や審査現場の実情から乖離した要求が拡大したため認証農場の対応がさらに困難となり、また、審査体制の維持も困難になります。

GAP 認証農産物を求める実需者の側から見てみると、日本の食品事業者は、農業において GFSI 承認の認証プログラムに限定した調達基準を設定しておらず、GFSI 承認の GAP が普及する環境がありません（国内外のバイヤーは ASIAGAP、JGAP、GLOBALG.A.P. 認証のいずれでもよいとするケースがほとんどです）。

このような状況を総合的に判断すると日本およびアジアの農業界、食品業界において GFSI 承認を維持する必要性は現状では低く、ASIAGAP に取り組む意義が低下しているといえます。それに対し、多くの農場及び食品事業者が JGAP を支持しており、食品事業者は JGAP 認証農産物への調達意欲を高めています。このため ASIAGAP における GFSI 承認を返上するとともに 2028 年に ASIAGAP の運用を終了し、JGAP に一本化することにより、一層の GAP の普及に注力することといたしました。なお、FSA (SAI Platform が運営) とベンチマーキングを行った +SA を JGAP の持続可能性を国際レベルとするアドオン規格として JGAP の地位を盤石にするべく活用していくこととします。

Q2：現在取得している ASIAGAP の認証はどうなりますか。また、その後はどうすればいいのでしょうか。

A2：現在取得されている ASIAGAP の認証は、認証書に書かれた有効期限まで有効です。次回の更新審査または維持審査のタイミングで JGAP2022（または JGAP2022+SA）の審査を受けて頂き、JGAP に移行して頂きますようお願いいたします。

Q3：取引先への影響はありますか。どのように説明すればいいのでしょうか。

A3：日本国内では JGAP への移行に関して取引先への影響はありません。ASIAGAP 認証を求める全ての食品事業者は同様に JGAP 認証も求めています。

Q4：ASIAGAP 認証のみ（GFSI 承認を受けた認証のみ）を限定して求める取引先がある場合はどうしたらいいのでしょうか。

A4：A3 にもある通り日本国内ではそのような食品事業者はいないものと認識していますが、輸出に際しての取引先が GFSI 承認のついた GAP 認証に限定して求めている場合は、以下の対応を進めてください。

(1) 2025年6月26日以前が認証日となっている ASIAGAP 認証は GFSI 承認がついた認証となる(※)ため、有効期限までは有効です。(ただし2025年6月26日までに取得した認証であっても、6月27日以降の維持審査時における施設の追加、団体の構成農場の追加などにより認証書を再発行した場合には GFSI 承認は無効となるのでご注意ください。)したがって、現在取得されている認証の有効期限が来る前に他の GFSI 承認の認証に移行するか、GFSI 承認を求めない取引先へのお取引の変更などをご検討下さい。

(2) ただし日本では他の GFSI 承認の認証を受けるには、一定の準備や調整が必要です。例えば、現在、日本国内で審査が行われている GLOBALG.A.P.認証は GFSI 承認を受けていない「Smart」という規格です。このため、GLOBALG.A.P.が GFSI 承認を受けている「GFS」(青果物のみ)という規格の審査を国内で実施すること等も含め対応方を協議させていただきますので、そのようなご要望がある場合には早急に日本 GAP 協会にご連絡ください。

※ GFSI 承認の取扱い及び日付設定は、GFSI との契約の解除に当たり決められたものです。

Q5：ASIAGAP の新規または更新審査はいつまで受けられるのですか。また、ASIAGAP の認証はいつまで保持できるのでしょうか。

A5：ASIAGAP の新規および更新審査の申し込み(認証機関の受付日)は2025年12月末日までとなります。審査は申込期限から90日以内に行う必要があります。維持審査については当該認証の維持審査受審期限まで受けることが可能です。

したがって、2028年の ASIAGAP 終了時点まで ASIAGAP の認証を保持したい場合は、2025年12月末日までに ASIAGAP の更新審査をお申し込み下さい(有効期限にかかわらず前倒して審査を受けて頂くことが可能です)。

Q6：ASIAGAP から JGAP2022 への移行に関する参考資料はありますか。

A6：ASIAGAP から JGAP2022 への移行に資する情報として、両者の相違点に関する概要を「移行ガイド」としてまとめました。ASIAGAP 認証農場におかれては、本ガイドも参考にして頂き、JGAP への移行を進めてくださいますようお願いいたします。さらに ASIAGAP と JGAP2022 の相違点の対比表も公開していますので参考にして下さい。

ASIAGAP と JGAP2022 で共通する項目であれば、既存の ASIAGAP の文書や帳票、記録をそのまま継続使用していただいて構いません。その場合は ASIAGAP の記録3か月分以上をもって代替することが可能です。また、団体管理マニュアルにおいても管理点番号の対応関係を確認する文書と不足部分の追補により対応が可能です。ASIAGAP には無く JGAP2022 から要求されている項目であっても、既に取組実績のある項目であれば、その記録の期間が直近3か月分以上あれば有効となります。ASIAGAP になく JGAP2022 で要求されている記録等は初回審査時と同様に3か月以上の運用が必要となります。ただし、7.4(3)や C3.2(4)など数は多くありません。各農場の現状に応じて確認ください。

Q7：審査を受けずに ASIAGAP から JGAP2022 に移行すること（JGAP の認証書を出してもらうこと）は可能ですか。

A7：審査を受けずに ASIAGAP から JGAP2022 に移行することはできません。更新審査あるいは維持審査のタイミングで JGAP2022 の審査を受け、移行することになります。

※ ASIAGAP にあわせ JGAP2016 との同時認証を取得している場合も JGAP への移行の場合は JGAP2022 の審査を受けて頂くことが必要です。

Q8：現在の審査サイクルを変えず（有効期限を変えずに）に ASIAGAP から JGAP2022 に移行できますか。

A8：更新審査あるいは維持審査のタイミングで移行すれば有効期限の月日はそのまま審査サイクルは変わりません。実際の審査の取扱いについては認証機関にご相談ください。

Q9：ASIAGAP 認証農場ロゴマークを使っていましたが、JGAP 認証農場ロゴマークに変更するにあたり何か手続きが必要ですか。

A9：JGAP 認証農場ロゴマークの申請が必要です。JGAP 認証農場ロゴマーク申請書、JGAP 認証書の写し、ロゴ使用イメージ案をご提出ください。ASIAGAP 認証書を添えていただければ発行手数料は無料とします。なお、ASIAGAP 認証の有効期限まで ASIAGAP ロゴマークも引き続きお使いいただけます。

Q10：+SA について教えて下さい。

A10：JGAP の持続可能性を国際レベルのものとするアドオン規格である +SA の概要は次の通りです。今回の資料「移行ガイド」にも付録として概要やロゴマークを掲載しているので合わせて御覧下さい。

■概要

農業の持続可能性をテーマとした国際団体「SAI Platform」が運営する規格「FSA」とのベンチマーキングを行い、JGAP、ASIAGAP に加えて「+SA」を実施することにより、FSA のシルバーレベルに相当することが確認されました。JGAP、ASIAGAP に加えて「+SA」も取得した認証農場は、世界レベルの持続可能な農業を実施していることとなります。

■SAI Platform の評価システム「FSA (Farm Sustainability Assessment)」について

「SAI Platform」は、持続可能な農業を目指し 2002 年に設立された国際的な団体（本部：スイス）で、農協・製造業・小売業者などフードシステムに関わる幅広い業種から、180 以上の組織が加盟しています。「FSA (Farm Sustainability Assessment)」は SAI Platform が提供する持続可能な農業の実践をテーマとした評価システムです。一般的な GAP 認証が要求する内容に加え、より詳細な水や土壌の管理、生産者が農地の権利を有していることや人権を重視した労務管理の確認などの点に特徴があります。FSA 自身が認証制度に類する評価の仕組みを持つだけでなく、他規格とのベンチマーキングの仕組みを有しています。その際の適合度は、上からゴールド、シルバー、ブロンズの 3 段階で示されます。

世界では、70 以上もの農業に関わる認証制度や法制度等が承認を受けています。

<SAI Platform のウェブサイト> <https://saiplatform.org/fsa/>

■ベンチマーキング対応の考え方

農業の持続可能性を主眼とする FSA への世界的な支持が広がっている中で、JGAP、ASIAGAP においても世界の潮流に対応するため、ベンチマーキングに取り組むこととしました。現行の JGAP、ASIAGAP によりベンチマーキングに対応するため、不足点については FSA への対応に特化した管理点を付加するアドオン（付加）規格としました。このアドオン規格は、ひとつで JGAP、ASIAGAP の両者に対応しますので、どちらの認証を取得している農場でも対応可能です。

■ロゴマーク

「+SA」を取得した農場は、持続可能性を表す+SA 規格として独自のロゴマークを、宣伝資材、農産物の包装等に表示できます。ロゴマークには「+Sustainable Agriculture」と、+SA の取得により持続可能な農業を実現していることが明記されます。

■アドオン規格の内容

アドオン規格の項目数は少なく、JGAP で 10 項目、ASIAGAP で 14 項目にとどまります。JGAP の追加項目数が ASIAGAP より少ないのは、最新の JGAP2022 が持続可能性に関する項目を強化したことによるものです。管理点の主な内容は次の通りです。

(1)土地の利用権があることの確認、(2)透明な商取引の実施、(3)農業経営に関する法令の遵守、(4)販売に関する契約の締結、(5)FSA が求める適正な農薬の使用、(6)労働者の適切な採用活動、(7)温室効果ガス低減への配慮、(8)周辺環境に配慮した肥料の取扱い など
審査は JGAP、ASIAGAP の審査と同時に実施します。

■+SA の審査、その他の情報

+SA の審査申し込みについては、次回の審査を予定している認証機関にお問い合わせください。

日本 GAP 協会サイトには+SA の概要および基準書、オンライン研修等について掲載されていますので日本 GAP 協会ウェブサイトをご覧下さい。（メニュー「認証取得>+SA」）

<https://jgap.jp/certification/plus-sa/>

Q11：ASIAGAP の 2028 年終了の告知が急遽なされた理由を教えてください。

A11：ASIAGAP の 2028 年終了の原因となったのは、Q1 にある通り GFSI 承認の返上を決定したからです。ASIAGAP は GFSI からの要求(Benchmarking Requirements。以下、「BMRs」と記載)に対応し、新たなバージョンが出る度に GFSI からの確認 (Benchmarking) を受ける必要があります。この GFSI 要求の新たなバージョンとなる 2024 年版 (以下、「BMRs2024」と記載) が今年の 12 月 20 日に公開されました。GFSI から承認を受けている認証プログラムは、公開後 9 ヶ月以内に BMRs2024 に沿った改定を実施し、運用を開始した上で Benchmarking の申請を行わねばなりません。このため、2025 年初頭より内容の分析と ASIAGAP の改定検討に入りましたが、その過程で農業の実情から乖離した要求の拡大に加え審査体制の維持も困難となることがわかりました。さらに並行して GFSI からの年次監査とそれへの是正対応なども並行して進んでいたため、農場をはじめとする関

係者の負担の累積を少しでも早く終了させるために早期の決断が必要と考え、承認の返上を決定して GFSI に通告し、GFSI から了承されたのは 4 月初旬でした。

GFSI 承認の返上とそれに伴う ASAIGAP の終了は認証農場の方々をはじめ多くの関係者に影響を及ぼします。このため、検討中などの中途半端な情報ではなく決定事項として、また、一部から徐々に伝わるようなものではなく、早く広く公平に伝えるべきものと考えました。したがって早急に公表の準備を進め 4 月 22 日に GAP 協会の全ての関係者に一斉にお知らせすると共にウェブサイトでも公開しました。4 月 22 日の公表については、このような経緯や判断によるものとなります。

Q12：JGAP と CODEX、HACCP との関係について教えてください。

A12：JGAP2022 における食品安全への対応については、一般衛生管理を前提として、リスクの高い重要なものについてはリスク評価を踏まえて重点的に管理するように要求しています。この重点的な管理は、2020・2022 年に改訂された「CODEX 食品衛生の一般原則」（「食品衛生の一般原則 2022 (GENERAL PRINCIPLES OF FOOD HYGIENE CXC 1-1969, Rev. 2020, 2022)」) の中で、「より大きな注意が必要な GHP (一般衛生管理)」として位置づけられています。

JGAP では ASIAGAP とは異なり HACCP 適用の 7 原則 12 手順を求めています。モニタリング可能な指標と許容限界の設定等が必要となる CCP の管理が困難な農業においては、リスク管理として適切なものと考えています。また、GHP で食品安全に関する農産物の理解および工程の文書化並びに GHP の効果を評価することを求めており、これは事前のハザード分析に相当します。このため ASIAGAP でリスク管理をしている農場は円滑に対応できるでしょう。

HACCP は「CODEX 食品衛生の一般原則」の中に含まれている管理手法のひとつであり、「CODEX 食品衛生の一般原則」では、「GHP」や「より大きな注意が必要な GHP」の管理のみで十分な事業形態もあることが説明されています。食品安全の国際標準は「CODEX 食品衛生の一般原則」を取り込んだ基準であり、JGAP2022 は、これを取り込んで農業における必要十分な衛生管理が実施できるよう考慮して開発されています。

Q13：ASIAGAP 審査員の今後について教えてください。

A13：ASIAGAP の 2028 年終了に伴い ASIAGAP 審査員も終了し、JGAP 審査員に移行することとなります。2027 年の更新の際に JGAP 審査員カードに切り替えてお送りすることとしております。

Q14：ASIAGAP 指導員の今後について教えてください。

A14：ASIAGAP の 2028 年終了に伴い ASIAGAP 指導員は 2027 年末をもって終了し、JGAP 指導員に移行いただくこととなります。ASIAGAP より少し早く終了時期を設定したのは、ASIAGAP 指導員としての活躍の場は ASIAGAP の新たな取り組みが進展する場面ですが、そのような場面が見込まれなくなるためです。このため、現在 ASIAGAP 指導員の方々に

は次の有効期限の更新時に、2028年以降も有効期限がある方にはJGAP指導員カードをあわせて送付することとしています。なお、2027年1月1日時点でJGAP指導員カードを所持していないASIAGAP指導員の方々には同じ有効期限を記載したJGAP指導員カードを順次送付することとしています。

<5月8日改定内容>

- ・Q4（維持審査時のGFSI承認）、Q6（JGAPへの移行時の記録の対応）の記述追加
- ・Q11～14の新設

<6月26日改定内容>

- ・Q4のGFSI承認が有効な認証の認証日を6月25日から同26日に修正

以上